

II. 公共施設マネジメントの具体例

6. 先進地視察

橋本市公共施設マネジメント基本方針を基に、具体的に橋本市において施設の多機能化・複合化を進めることを考えた際、他の自治体の先進事例を研究し、職員の方から現場の声を聞くことは重要と考えられます。

そのため、いくつかの先進事例についての情報を集め、その中から2つの自治体へ視察を行いました。

視察地の選定において、重要視した点は以下の3点です。

- ①施設の複合化を行って相当年数が経過しており、現在安定した運営が行われていると考えられること
- ②セキュリティ面での対策が重要視されるであろう、小学校へ他施設を併設している複合化事例であること
- ③施設間での交流を行っている複合化事例であること

(1) 大阪府茨木市

施設名：庄栄小学校・庄栄図書館・庄栄コミュニティセンター
(小学校と図書館、コミュニティセンターの複合化例)

- ①経過年数：15年（平成10年2月竣工）
- ②小学校とは別に図書館・コミュニティセンター用の入り口を設置
- ③月に6日間、25分休みの図書館利用ということで、施設間の渡り廊下を開放し、子供用図書スペースの活用を行っています

茨木市においては、1987年の茨木市文化施設計画策定委員会答申「文化施設（図書館並びに美術館等）の計画策定について」に基づく図書館計画により、第3分館を建設する予定でした。しかし、建設予定地の地理的な問題等から、結果的に庄栄小学校敷



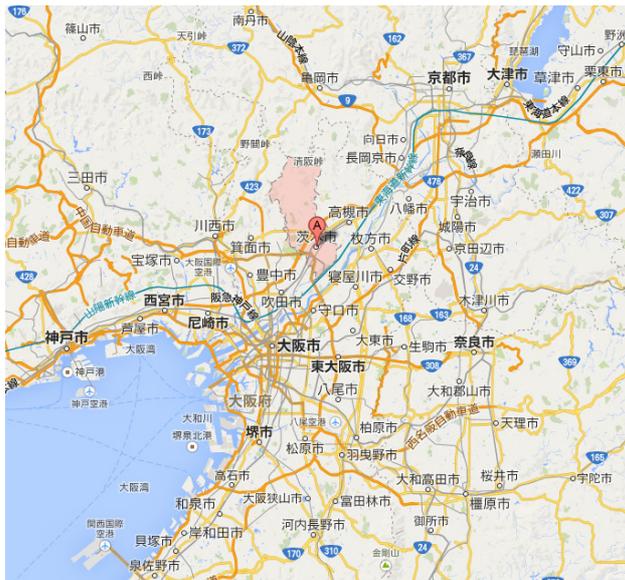
地内に建設されることとなりました。

【利用状況】

小学校敷地内に新たに建物を建設し、庄栄図書館、コミュニティセンターを併設しており、図書館と小学校間は渡り廊下によって行き来できる設計をしています。

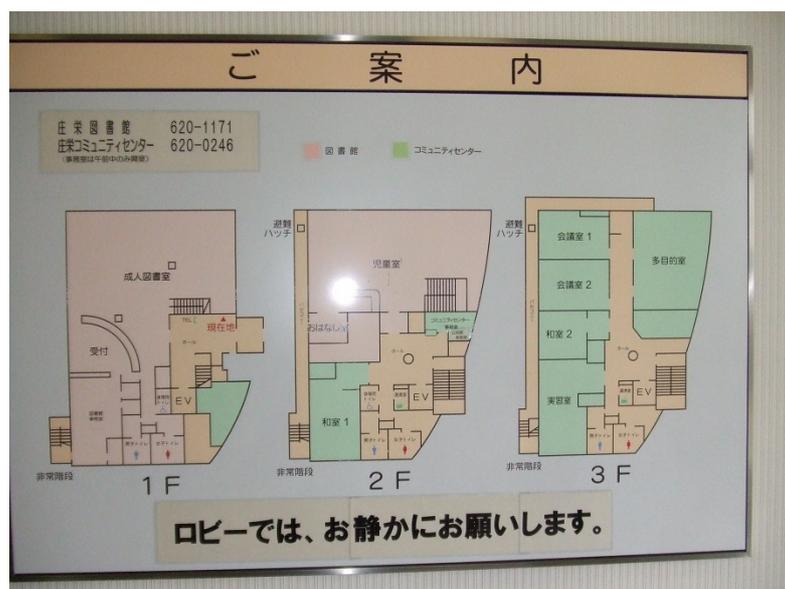
小学生は、月に6日間、25分休みの図書館利用ということで休憩時間に渡り廊下を開放し、自由に2階の子供用の図書スペースを利用できます。視察の際にはこの渡り廊下の開放がされており、大勢の小学生が自主的に図書館を利用していました。また、廊下には、ボランティアや父兄の方々が廊下での見守りを行うなど、積極的な市民の参加も見られました。

同建物に併設されているコミュニティセンターは3階建てです。茨木市では公民館のコミュニティセンター化を平成6年から勧めており、現在残っている2つの公民館も順次コミュニティセンター化する予定です。午前・午後・夜の3部に分け、1つの部で800円～2000円の利用料金で多目的室、和室、実習室、会議室等を使用することができます。



【管理状況】

施設の管理については、建物ごとに管理を行っています。また、コミュニティセンターは、地域住民による指定管理を採用し、大規模な改修費用等を除く維持管理費用について原則料金収入で賄うことで、コストダウンを図っています。ま



た、当初は関係部署間・管轄部署とコミュニティセンターの管理者間の連携会議を頻繁に行っていましたが、現在は安定した運営を行えているため、会議の回数は大幅に減り、管轄部署と管理者との連携も月に1回程度の会議のみとなっています。

【セキュリティ面】

図書館・コミュニティセンター施設と、小学校施設に、それぞれ入り口を設け、渡り廊下は通常時は施錠されているため、基本的には利用者間の動線は区別されており、渡り廊下の開閉によって施設間の人の行き来がコントロールされています。また、2階のこどもがよく使う所にはミラーを設置し、カウンターから視角がなくなるよう工夫がなされています。

市民参加による見守りの実施等の効果も一因と考えられますが、施設の運用開始から併設後15年を経過した現在まで、セキュリティ面での問題は出ていないとのことでした。

【視察を終えて】

小学校に他の施設を併設することによる、小学生の積極的な図書館利用や、図書館利用者やボランティア・父兄等の見守り等の様子を視察することができました。また、施設を併設することで、ある施設の利用者が別の施設も利用する機会が生まれ、各施設の利用率の向上に繋がっているとのことでした。こうした、施設間での相乗効果は施設の複合化のメリットと考えられます。

なにより、小学校敷地内に人が集まり、地域の交流拠点となることで学校敷地内には活気が生まれ、よいコミュニティを形成しうることを視察することができました。

(2) 京都府向日市

施設名：向日市立第4向日小学校（小学校と老人福祉施設の複合化例）

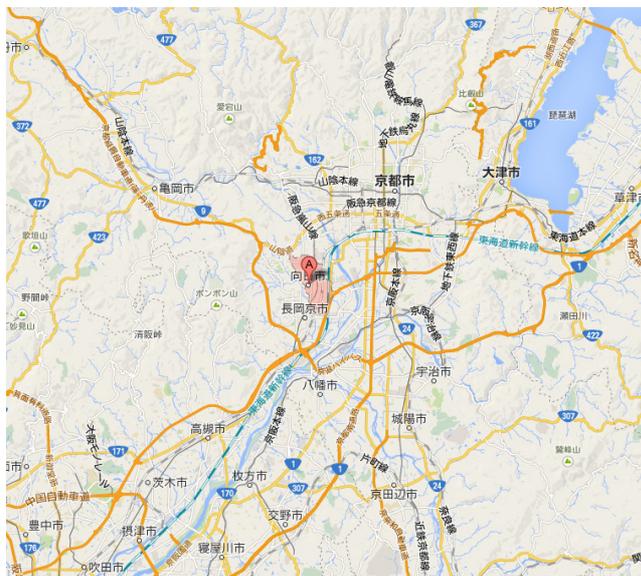
- ①経過年数：13年（平成12年7月開館）
- ②小学校とは別に老人福祉施設用の入り口を設置
- ③全学年少なくとも年に1回は交流の機会を設けています



向日市は、昭和30年代後半から宅地化が進み、他地域からの転入が急増した人口過密地域です。その後、少子高齢化の進展により老人福祉施設の不足・児童生徒の減少による空き教室の増加が見込まれたため、建物の有効な運用のため、校舎の一部を老人福祉施設へと改築しました。現在は当時想定されていなかった周辺地域の開発により、児童生徒の増加に転じており、今後の空き教室の減少が予想されています。

【利用状況】

向日市においては老人福祉施設が市内に2ヶ所あり、視察を行った老人福祉施設「琴の橋」は活発に活動できる老人が利用する施設となっています。利用者は、施設内にある大広間や創作工房室において、卓球や陶芸など様々なサークル活動を精力的に行って



また、休日・夜間の警備及び消防防火管理面では、管理費を1本化し、警備に関しては、①昼間：警備員等なし②夕方：シルバー人材③夜間：セコムを利用しています。

【複合化に関して】

向日市においては、老人福祉施設建設時には人口増加に転じる予定は全くありませんでした。しかし現在周辺の環境が変わり、開発が進みます。それに伴い児童数も人口も増加傾向にあり、当時300名程度だった児童数は現在約500名になり、現在は逆に余裕教室が減少してきている状況にあります。これらのことから、一度老人福祉施設に改築した部分を、小学校に戻せるようなフレキシブルな構造にしておけば、より環境変化に対応しやすい施設になっただろうと、当時の担当者から複合施設に関する提案ということでお話を伺うことができました。

これらのことから、学校に限らず、地域の環境の変化に柔軟に対応できるような可変的な施設を建設してゆくことが望ましいと考えられます。

【視察を終えて】

福祉施設においては、元気な老人が活発に幅広いサークル活動を行っていました。そのため、小学生と老人福祉施設の利用者間で、様々な種類の世代間交流を持つことができ、小学生にとっては多様な地域文化に直接触れる機会の増加、老人にとっては子供から元気をもらえる等のメリットがあると考えられます。

また、茨木市での視察同様、ここでも防犯面での問題は起こっていなかったため、小学校の複合化の際には、セキュリティ面の課題は解決できるという判断を後押しする形となりました。

最後に、茨木市と同様、施設の複合化により多様な人々が多く集まることで、新たなコミュニティが形成されていました。施設が集積化されることにより、互いの施設間に良い相乗効果が生まれ、様々な交流が生まれます。これにより、その場が地域の交流拠点として成り立ち、その結果敷地内には活気が生まれていました。このことが、施設の複合化のなによりのメリットであると考えられます。

7. 橋本市における複合化案

具体化案については、あくまで検討の上での一例であり、市の決定事項ではないため割愛しています。

Ⅲ. まとめ

本プロジェクトでは、市の公共施設の現状及び費用負担等を分析するため「公共施設の現状」「人口の推移」「財政の状況」「公共施設の更新費用推計」について研究しました。

研究により現状規模のまま、築30年で大規模改修、築60年で建て替えすると今後の更新費は、市民1人当たりの費用負担額は、**約4.0万円/年（平成22年度）から約5.9万円/年（平成55年度）と約1.5倍**になります。

このことから「橋本市公共施設マネジメントの適正化」は、早急な課題であることがわかりました。

これを受けて「橋本市公共施設マネジメント基本方針」を示しました。

(1) 基本方針

方針を以下のとおりとしました。

- ①公共施設の総量の最適化
人口予測に合った床面積への削減、
施設の広域化、複合化、
- ②ソフト化、官民連携の推進
民間の資金、資本、技術力の活用
- ③市民との情報の共有化
受益者となる市民への積極的な情報提示
- ④財源の確保

更新コストの削減、資産の有効活用、利用者負担の適正化

⑤一元管理

全施設の効果的、効率的な施設管理のための一元管理

市の決定事項ではないため、一部割愛しています。

わくわく
ハコモノ探訪プロジェクト

橋本市公共施設の現状と今後

編集 / HMP48 「ハコモノ わくわく探訪プロジェクト」